

# ブダペスト通信

盛田 常夫



2022年 NO. 20

4月20日

ハンガリーの銀行がルペン女史に選挙資金を融資

ーハンガリー社会のオルバン (Orbanization: 国庫社会) 化現象

「類は友を呼ぶ」。オルバン首相（ハンガリー）は一昨年アメリカ大統領選挙でトランプ支持を明確にし、プーチンや習近平に親近感を抱き、エルドガン（トルコ大統領）とも親しい関係にある。自由主義を掲げた一介の活動家は、いつの間にか、東西の専制権力者に接近し、EU内の「独裁者」とまで称される政治家に成り上がった。

社会主義時代には反体制活動家として、ソ連軍の撤退を主張し、自由主義を掲げて政治家になったが、2010年の総選挙に勝利した後は、自由主義の旗を降ろし、民族主

義・家族主義を掲げて、政権維持に奔走した。優れた政治感覚（権力感覚）を遺憾なく発揮し、党内で絶対的な地位を確立した後は、EU加盟国でありながら、意図的にEUの共通政策への対立軸を作ることによって、ハンガリー民族主義を高揚させ、権力基盤を固めることに成功した。その結果、2022年の総選挙で再び三分の二の議席を確保し、連続4期16年の長期政権樹立にいたった。

確かに20世紀の歴史を振り返れば、東欧ハンガリーの運命は西側諸国とロシア・ソ連に翻弄されてきた。1920年のトリアノン条約で国土を三分の一にまで縮小され、ヤルタ会談によってソ連圏に組み入れられ、1956年ハンガリー動乱では西側諸国の支援を受けることができなかった。20世紀の苦い歴史を考えれば、西側大国の言い分を言葉通りに受け入れることはできない。資源のないハンガリーが「ロシアの天然ガスと石油の輸入を止めろ」と言われても、できない話であることは西側諸国も分かっている。だから、EUがハンガリーにロシアからのエネルギー輸入を放棄せよと迫っているわけではないが、プーチンを慮るような言動を憚らないオルバン首相への批判は根強い。実際、ハンガリー国内にあるはずのロシア政治家・実業家の資産や定住許可（golden visa）の状況は秘匿されたままである。口では対ロ制裁に同調しているが、実際にはきわめて消極的な対応に終始している。国内的には支持を取り付けた政権だが、国際的には難しい状況に追い込まれている。

プーチンを慮っていると評価されるハンガリー政権が、ロシアの侵略が終わった段階でどのような扱いを受けるのか。プーチンが権力から排除されれば、まったく別の政治局面が展開する。プーチンの盟友として、EUから厳しい対応を迫られる可能性がある。これまで対EU政策で共闘してきたV4（チェコ、スロヴァキア、ポーランド、ハンガリー）の共同歩調が崩れ、V4内で孤立する可能性が大きい。ウクライナ政府からも厳しい対応が迫られるだろう。

### 政商銀行になった MKB 銀行

総選挙前の今年2月、フランス大統領候補ルペンがハンガリーの銀行から融資を受けたという報道が流れた。もちろん、この種のニュースは公共放送では一切報道されないが、独立系や反政府系のメディアがこれを報道した。

ルペン女史はフランスの銀行から新規の融資を受けることができなかつたようだ。他方、フランスの法規制では EU 外からの資金調達は違法とされている。そこでルペン女史が目をつけたのは EU 内の右派勢力に親近感を抱くハンガリーである。昨年 10 月、ルペン女史はオルバン首相を訪問したが、その目的の一つは銀行融資の取付けにあった。オルバン政権は銀行再編成に乗り出しており、政権の息のかかった実業家に銀行を譲渡し、役員にも政権に近い人材を配置し、銀行部門への影響力を拡大してきた。オルバン首相の盟友で、公共事業や補助金を一手に獲得して、ガス配管業からハンガリーの億万長者番付のトップに躍り出たメーサーロシュ（オルバン首相の同郷出身）に、MKB 銀行の所有権を与えた。



2021 年 10 月。オルバン首相を訪問したルペン候補 ([index.hu](#))

もともと、MKB 銀行は旧体制時代には、外国貿易取引を独占的に引き受ける銀行として機能し、体制転換後はバイエルン州立銀行に売却された銀行である。しかし、リーマンショック以後、収益が落ちた銀行はハンガリー政府に売却され国有化されたが、政権政党 Fidesz はこれを契機に銀行部門を支配下に置くべく、オルバン首相の盟友メーサーロシュ・リューリンツに加え、同じく公共事業で焼け太ったスィーイ・ラーズロー（道路関連の公共事業を一手に引き受ける Duna Aszfalt 社長）に所有権が渡るように仕

組んだ。ちなみに、スィーイ所有の子会社がマルタに登録している豪華ヨット（Lady MRD）は、政権幹部や政商たちがシェアリングしている。



Lady MRD

2020年8月、スィーヤルトー対外外務大臣が家族でこのヨットに乗船していたことが暴露された。当時、外務大臣は同時期に執務室で勤務している姿をFacebookに投稿して、ヨット乗船を秘匿していた。どこから乗船したか知らないが、乗船地までもシェアリングしているプライベートジェットで行ったのだろう。

さて、ルペン候補が選挙管理委員会に提出した大統領選挙資金調達書（3月3日署名）が公開され、そこにハンガリーのMKB Bankから1069万ユーロ（10,691,775ユーロ）の融資を受けたという記載がある。

MKB Bank Nyrt Hungary	Financement campagne présidentielle française	10 691 775 euros	Durée 16 mois	10 691 775 euros
--------------------------	--	------------------	---------------	------------------

ルペン候補の資産報告書（Déclaration de patrimoine de Marine Le Pen, 2022年3月3日署名、12頁）



もちろん、商業ベースで融資すること自体に問題があるわけではない。問題はこの融資が、政治的な性格を持っていることである。オルバン首相は国有化された MKB 銀行を、息のかかった政商に売却（再民営化）した後に、これを政治目的に利用したのである。オルバン首相から声がかからなければ、一介の商業銀行が外国の政治家の選挙資金を融資するわけがない。ルペン候補が大統領に当選すれば資金は返済されるだろうが、落選すれば資金はまず戻って来ない。事実、ルペン候補は前回の大統領選で、チェコのロシア系銀行から借りた資金を返済していない。MKB 銀行の融資もいずれ不良債権として、処理されることになるだろう。しかし、政治家も経営者も、誰 1 人として、この不適切な融資の責任を取ることがないだろう。法外な利ざや取って稼いだ利益で穴埋めするだけのことである。政商銀行たる所以である。オルバン首相は商業銀行をまるで自分のポケットのように扱っている。

### 前回の大統領選で資金を融通したチェコの銀行

1996 年に設立された First Czech Russian Bank (FCRB) は 2016 年に倒産したが、この銀行の重要書類の多くは破壊され、2007 年から 9 年間にわたる銀行業務の実態を隠蔽する工作が行われた。この実態を調べた報告書が、Alliance for Securing Democracy (ASD) による *A Case Study of the First Czech Russian Bank*, December 28, 2018 である。この銀行はチェコとロシアの貿易を仲介するという名目で設立されたが、実態はロシアの実業家や企業の資金洗浄やイランなどへの軍事物資取扱いを仲介する機能を担っていた。

FCRB がルペン候補の National Front に 940 万ユーロを融資したのが、2015 年 9 月である。Washington Post (September 27, 2018) に、このローンが組まれた経緯とその後の経緯が詳述されている。

1. マリーヌ・ルペンが自らの党へ資金を融資してくれる銀行を探し、ストラスブルグ出身の極右政治家で欧州議会議員ジャン＝リュック・シャフハウザー (Jean-Luc Schaffhauser) に融資仲介を依頼した。そこで、シャフハウザーはロシアの国会議員アレクサンダー・ババコフ (Alexander Babakov) に相談することになった (2014 年)。

<p>договору.</p> <p><b>СТАТЬЯ 2. ПРЕДМЕТ ДОГОВОРА</b></p> <p>2.1. Кредитор предоставляет Заемщику Кредит в форме кредитной линии с лимитом выдачи в размере <b>9 400 000,00</b> (Девять миллионов четыреста тысяч 00/100) евро с Датой окончательного погашения Кредита - «23» сентября 2019 г., если иная дата не установлена Кредитором в соответствии с условиями Договора, с погашением на условиях, изложенных в п. 5.5 и п. 5.6 Договора, уплатой Процентов, начисленных в соответствии с условиями статьи 6 Договора.</p> <p>2.2. Кредит предоставляется Заемщику на следующие цели: ... оборот</p>	<p><b>ARTICLE 2. SUBJECT MATTER</b></p> <p>2.1. The Lender shall grant the Loan to the Borrower in the form of a facility with a disbursement limit of <b>nine million four hundred thousand Euro (€9,400,000.00)</b> with a Final Loan Repayment Date of <b>23 September 2019</b>, unless any other date determined by the Lender pursuant to the terms and conditions of this Agreement, to be repaid on the terms and conditions set out in clause 5.5 and 5.6 and of this Agreement and with payment of Interest calculated pursuant to article 6 of this Agreement.</p> <p>2.2. The Loan proceeds shall be applied by the Borrower to: replenishment ... assets.</p>
--	---

First Czech loaned 9.4 million euros, about \$12.2 million at the time, to Le Pen's party at a rate of 6 percent per year. The final loan repayment date is Sept. 23, 2019. (Mediapart/The Washington Post)

2. ババコフはシャフハウザーに、チェコに設立されたロシアの合弁銀行 FCRB を紹介し、当時の頭取ロマン・ポポフ (Roman Popov) とルペン党の会計責任者が融資契約に署名した (2014年9月)。この時の契約で、仲介者のシャフハウザーは14万1千ユーロの仲介料を取得し、2015年9月にこの融資が実行された。

<p>или иных удержаний.</p> <p><b>СТАТЬЯ 8. ПРОЧНЕ ОБЯЗАТЕЛЬСТВА</b></p> <p>8.1. Не позднее Даты использования первой Выплаты Заемщик уплачивает Кредитору комиссию за открытие Ссудного счета в размере <b>141 000,00</b> (Сто сорок одна тысяча 00/100) евро.</p> <p>8.2. До тех пор, пока Кредит остается непогашенным, Заемщик принимает на себя следующие обязательства:</p>	<p><b>ARTICLE 8. OTHER OBLIGATIONS</b></p> <p>8.1. The Borrower shall, on or before the first Disbursement Utilization Date, pay to the Lender a Loan Account opening fee in the amount of <b>one hundred forty one thousand euro (€141,000.00)</b>.</p> <p>8.2. As long as the Loan remains outstanding the Borrower shall assume the following additional obligations to the Lender:</p>
--	--

Jean Luc Schaffhauser, a member of the European Parliament, says he received a roughly 140,000-euro fee, about \$181,000, for negotiating the loan. (Mediapart/The Washington Post)

3. このロシアの合弁銀行は2000年に入って、プーチンの盟友でオルガルヒであるタイムチェンコが所有するパイプライン会社ストロイトランスガズ (Stroytransgaz) の所有になったが、2007年にストロイトランスガズの役員だったポポフがこの銀行を買収した。当時、彼はロシア-イラン・ビジネス評議会の議長を務め、中東ならびに南東欧に種々の利権を保有していた。彼の銀行買収は、当時欧州内で営業する唯一のロシア

系銀行を使って、マネーロンダリングや制裁逃れのビジネスに従事することだった言われている。

4. しかし、この銀行が各種の不可解な取引によって銀行資産を流出させていることが問題になり、2015-2016年にかけてチェコ（チェコ支店）とロシアの金融当局（ロシア本店）がFCRBの監査に入った。その結果、欧州内での銀行営業許可が取り消されFCRBは倒産した（2016年3月）。

5. 銀行が倒産する直前に、FCRBはロシアの企業Konti（モスクワ郊外で設備のレンタル事業を営業）にルペンに対する融資債権を売却した。その後Kontiは不可解な取引を通して、この融資債権をAvizapchast（モスクワで航空機事業を営業し、シリアへの武器販売に従事する軍産企業）に再譲渡した。なにゆえに、ルペンに対する債権がロシア企業へ販売され、ロシアの軍産企業がそれを購入したのか不明な点が多い。

それはさておき、この融資についてロシアの預金保険機構が問題視し、ロシア政府の資産であるとしてポポフを告訴し、現在もなお国際手配中（この容疑だけでなく、種々の資産流出容疑）である。

6. ルペンが党首を務めるNational Frontにたいする融資返済裁判が2018年5月に結審し、National Frontはロシアの軍産企業への返済義務を負うことになり、両者で新たな返済契約書が締結されたが、それが実行されるかどうかは不明である。ロシアの軍産企業にとってルペンへの債権は端金にすぎず、この債権はルペンをロシアサイドにつなぎ止める道具として利用されていると考えるべきだろう。

### EU資金の不正使用でOLAFから捜査要請

フランス大統領選挙を数日後に控えた今週、フランスでは一斉にOLAF（欧州不正監視局）がフランス検察にたいして、ルペン候補のEU資金不正使用の報告書を送付し、捜査を依頼したことを報じた。この報告書は3月11日にフランス検察に送付されたものだが、大統領選挙の決選投票直前になって、メディアで大きく報道されることになった。明らかに、親ロシア発言を繰り返すルペンへの最後の一撃である。

報道によれば、ルペン女史が欧州議会議員だった 2004-2017 年の間に取得した EU 資金を自らの政党を支持する企業へ横流ししたという公金不正使用で、個人として 140,000 ユーロ、他の党員の不正使用を含めた総額 617,000 ユーロの返却が求められている。OLAF はこの件を含めた容疑について、2017 年からルペン女史の資金使途調査を行ってきた。

ただでさえ劣勢なのに、投票直前のスキャンダル報道は致命的である。ただ、決戦投票まで持ち込んだことで、1000 万ユーロ近いお金がフランス政府から補助される。しかし、選挙戦で使った費用を賄うだけで精一杯で、銀行借入金の返済など後回しである。オルバン首相も、熨斗（のし）が付けられて返ってくるとは思っていないはずだ。

MKB 銀行がどのような融資契約を締結しているか知る由もないが、オルバン首相には、初めから返済されないことが分かっている資金である。しかし、返済されないことが予想されながら、資金を融資するのは明らかに背任行為であり、共同詐欺行為である。それでもなお、現在のハンガリーでは、銀行経営者も政治家も不明朗な融資の責任を追究されることはない。不法なことはしていないと強弁すれば、それで済んでしまう。公的メディアは政府に不都合な事実を一切伝えない。銀行業への監督規制が弱いだけでなく、政治家が絡んだ案件、まして首相が絡んだ案件では検察は動かない。そのために、2010 年に任命された子飼いの検事総長が、2018 年にさらに 9 年の任命を受け、実に 2028 年までの 18 年間にわたって検事総長の座に居座っている。

プーチン政権下ですら、ロシアの金融当局はルペン女史への融資を犯罪として追及している。それに比べ、オルバン政権下のハンガリーでは、鷹揚にも、オルバン首相のプレゼントで済んでしまう。盟友が所有者なら、銀行も自分のポケットのようなものと考えているのだろう。国民もそれを何とも思わないほど、ハンガリー社会の監視は緩んでいる。

事実上の一党独裁や個人的専制政治が長く続くと、こういう不正行為が堂々に行われ、誰も咎めることがない。検察も、メディアも、政治も、世論も、大統領すらただただ無関心だ。世俗の王になったオルバン・ヴィクトルに楯突く者はいない。まさにこれこそ、ハンガリー社会のオルバン化（Orbanization: 国庫社会化）なのである。